「地域公共交通シンポジウム　in　中部」を開催しました

（中部運輸局）

中部運輸局では、令和元年 11 月 6 日(水)に東建ホール・丸の内(名古屋市中区)において「地域公共交通シンポジウム　in　中部」を開催しました。このシンポジウムは「まちと MaaS と交通と」をテーマに、地域の課題解決に「MaaS」を活用して取り組もうとしている事例の紹介を通じて、これからの地域公共交通が、誰にとっても暮らしやすく、居心地のいいまちづくりに貢献できる可能性を探ることをコンセプトとしました。

当日は自治体の交通担当者や交通事業者の他、自治体の都市計画担当者やコンサルタント会社、シンクタンク等、163 名の幅広い業界のみなさまにご来場いただきました。

【基調講演】「未来の都市交通のための論点」　横浜国立大学副学長　中村文彦教授

基調講演では、現在の交通の問題やこれからの動きなどを学術的な視野からご講演いただきました。各国の交通事情等も鑑みつつ、自家用車ではないオプションがあるまちづくりをめざしてゆく手段としての「MaaS」は交通手段だけではなく既存の技術、日常生活のいろいろなシーンと移動をつなげていくことができる。そのためには地域で包括的にリスクを分散させ、責任を明確にしていくことが重要であるとの提言をいただきました。

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは、「こもののおでかけを MaaS で便利にするプロジェクト」を推進し、町民の生活利便性及び来訪者の移動利便性向上を目的とした町内地域公共交通サービス全体の検索・予約・決済システムの構築を目指している三重県菰野町の柴田孝之町長、人の移動を束ねることで居住や商店など目的施設を自然と集積し、交通事業者と将来のまちのビジョンを共有しながらまちの機能が変わるように誘導していく施策を展開している高松市交通政策課伊賀大介課長補佐、伊豆ではじまっている観光型 MaaS 実証実験の実行委員長をして JR や地元の交通事業者・行政と連携しながら住民も含めた移動環境の改善や受け入れ環境の整備など伊豆の地域振興を推進されている東急株式会社交通インフラ事業部森田創課長の３名をお招きし、基調講演いただいた中村文彦副学長をコーディネーターとして、自己紹介を含めた活動内容を紹介いただきました。

パネルディスカッション後半ではパネリストの皆さんが考える「MaaS」の定義や、この先「MaaS」をそれぞれの施策にどのようにつなげていくのかについて、活発に意見交換が行われ、「MaaS」が目的化したとしても、進めていく上で何が問題になっているのかをしっかり整理していくことが重要であるとのお話しをいただきました。

【個別相談会】

シンポジウム終了後には、自治体や事業者が抱える具体的な問題について、個別相談会を実施しました。自治体を中心に公共交通計画の策定や MaaS の実装についての質問が寄せられ、個別ブースに分かれて本局・支局職員との質疑応答を行いました。

なお、当日の講演資料についてはホームページに掲載し、シンポジウムの様子は YouTube にアップしております。

https://wwwtb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/symposium/index.html

中部運輸局では今後もシンポジウムなどの機会を通じて、地域公共交通の課題や期待される将来像について広く共有するとともに、施策の推進に取り組んでまいります。

【坪井局長による開会挨拶】

【基調講演　横浜国立大学　中村先生】

【高松市　伊賀課長補佐】

【柴田菰野町長】

【東急(株)森田課長】

【パネルディスカッションの様子】

【熱気あふれる会場のようす】